

「わたしのしぜん」

(自然物を素材とした、二つの題材の実践報告)

(図画工作科・第3学年対象)

三重大学教育学部附属小学校 教諭 猪 泰介

I はじめに

昨年度、「自然環境」を活用しながら作品を完成させることで「環境教育」に迫ろうと「風のいろ（1年・かざぐるま作り）」の実践に取り組んだ。子どもが風の力を感じ取ったことなど、一定の成果が見られた内容ではあったが、あくまで子どもの興味関心の範囲で留まっていたことが課題となった。そこで、本年度は、もっと自然物との関わりを深める内容として、図画工作の素材に自然物を活かす内容とした。そうすることで、自然物のよさやおもしろさを活かして活動が進められ、より自然物を身近に感じることができると期待した。今年度は「秋のおべんとう」「チョークで影絵」の二つの題材を構成した。

II-1 実践1「秋のおべんとう」の概要

(1) 題材について

本題材は校内で集めた落ち葉や枝、木の実などの自然物を食品に見立てて、お弁当を構成する活動である。時期は二学期後半の秋～初冬にかけて行った。校内を自由に周り、興味のある形や色の葉や実や枝を拾い集めさせ、それを素材として学習を進めた。学習を進める上で次の三点について気をつけた。

一つは、より多様な自然物を集めさせること。後のお弁当をつくる活動で幅広い表現を可能にするためでもあるが、校内の自然物についての意識を広げさせるねらいもあった。より自分の思いにあった自然物を集めたいという気持ちやよりたくさん自然物を集めたい気持ち、このような気持ちを満たすためには、校内の樹木・草花がどこに生えていて、どんな形や色をしているかを考えなければならない。そのような意識が以降の製作に繋がり、より表現が広がることを期待した。

二つは、グループで学習を進めさせること。校内で自然物を集める際にもグループで活動させる。グループ内で、どんぐりが落ちている場所や大きな葉っぱの生えている木などを教え合うことで、より多様な自然物を集めさせたり自然物に意識を持たせたりするためである。また、校内で集めた自然物をグループ毎に紹介させ、互いのグループがどんな自然物を集めたか見合ったり拾ったときの思いを伝え合ったりさせた。同じ種類の木の葉や実であっても、思いを交流させることで、さらに多様な見方を持たせたり自然物の形や色のおもしろさや美しさに気づかせたりすることをねらいとし

ためである。

三つは、自然物を集める目的を伝えないこと。製作活動の際に初めてお弁当を作ることを知らせることで、集めた自然物への思いを再構成させることをねらいとした。それまでの活動で、自然物を自然物のままに鑑賞させ、落ち葉の形の面白さや木の実の色の美しさなどの思いを子どもに持たせている。その自然物を今度は食品を見立てるための素材として扱わせる。本題材は第二次の活動であるお弁当づくりで、自然物の形や色を食品に見立てなければならない、例えば、黄色く色づいた銀杏の葉を卵焼きに見立てる発想をし、それをより卵焼きらしくおいしそうに見せるために葉を卵焼きの形に並べたりケチャップ代わりの赤い葉を置いたりするなどの構想を練る必要がある。このように、自然物への思いを土台として、より豊かな発想や構想につなげるためには、自然物本来の形や色への思いを子どもに持たせる前段階が不可欠である。そのために、自然物を収集する段階と素材として構成する段階を分けることとした。

(2) 学習計画 (全4時間)

第一次 自然物を収集し、その形や色のおもしろさや美しさを仲間と共有する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

第二次 素材を食品に見立て、お弁当を構成する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

(3) 授業の実際

第一次 自然物を収集し、その形や色のおもしろさや美しさを仲間と共有する。

導入として、「校内で拾える素敵な物は何があるか」と問うた。秋だったこともあり、「赤くなった葉」「松ぼっくり」「どんぐり」などが出てきた。その後、グループで自然物をたくさん集めること、他のグループが見つけれられないようなものを集めることを伝え、自由に集めに行かせた。子どもたちは意欲的に自然物を集めていた。図工室に戻った後にどんなものを拾ったのか、全体に問うた。それぞれのグループが思い思いに自分達の拾い集めた自然物を紹介した。同じ木なのに色が違う葉っぱや、顔よりも大きな葉、様々な種類のどんぐりなど、校内にこれほどの種類の自然物があるのかと思うと共に、それだけの量を集めた子どもに感心させられた。



自然物を収集している様子と、教室に並べている様子。

第二次 素材を食品に見立て、お弁当を構成する。

授業の始めに、お弁当には何が入っているかを問うた。「ミートボール」や「フルーツ」「卵焼き」などが出た。その後に、集めた自然物を素材としてお弁当を作ることを

伝え、活動に見通しを持たせた。活動の前にどんなお弁当にしたいのか、自分たちの素材を見ながら思いついたことを自由に発表させた。子どもからは「クリスマスのおべんとう」「木の実のおべんとう」などが出た。それらの意見を板書し、活動の参考とさせ、お弁当づくりを行った。どうしても、材料が足りない時は、図工室横の裏庭のみ追加で素材をとってきても良いこととした。子どもたちは、松ぼっくりをからあげに見立てたり、ススキを白米に見立てたりしながら、グループで協力してお弁当を作っていた。



板書と活動の様子



完成作品（お弁当）

Ⅱ-2 実践2「チョークで影絵」の概要

(1) 題材について

本題材は校内で集めた落ち葉や枝、木の実などの自然物の形を自由に見立て、チョークの粉を用いて形を写し取り絵に表す活動である。素材としては、実践1で用いた自然物に新たに拾い集めた自然物を加えた。本題材は、自然物を黒画用紙の上に並べ、その上からチョークの粉をかける。その後自然物を取り除くことで、黒画用紙に直接チョークの粉が降りかかった個所と、自然物が置いてあることでチョークの粉が降りかからなかった個所とで絵に表すことができる。作品はチョークの粉が降りかかっているだけで定着はしておらず、紙を傾けることでチョークの粉は全て落ちてしまう。そのため、タブレット端末を用いて写真に残しながら製作を進めた。



チョークの粉を降りかけて、素材の形を写しとった様子。

学習を進める上で次の二点について気をつけた。

一つは、実践1同様に自然物を集める目的を伝えないこと。ねらいは実践1と同様であるが、今回は見立てるものは自由となる。その代わり、見立てる要素は形のみとなる。このことから、本題材では、自然物の形から「〇〇のような形に見える」という発想が基点となり、その見立てをより思いに近づけるための構想となる。

二つは、自然物の形を変えさせないこと。本題材では、自然物の形を何かに見立て、その思いを表す内容である。そのため、形を好きなように変えることは、自然物を基点とした発想とならないため、自然物の形にはほとんど手を加えないこととした。(葉から伸びた枝を切ったり、広がった枝の形を整えたりする程度は認めた。)

(2) 学習計画 (全3時間)

第一次 新たに自然物を収集する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・0.5時間

第二次 素材の形から発想し、影絵に表す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

(3) 授業の実際

第一次 新たに自然物を収集する。

実践1で使用した自然物の数が少なかったり形が崩れていたりしたため、休み時間を利用し、新たな自然物を自由に拾いに行かせた。実践1での経験を活かし、短い時間でも多様な種類の自然物を拾い集めてきた。

第二次 素材の形から発想し、影絵に表す。

授業の初めに「影絵」という言葉から思いつくことを自由に発表させた。子どもから「影芝居」や「影遊び」などが出た。その後、実際に教師が黒画用紙に適当に葉を並べ、上からチョークの粉をかけた後に、葉を取り除くと葉の形が残る様子を例示した後に、活動をはじめた。子どもは、それぞれ黒画用紙に素材を並べ、形を写し取ること自体を楽しんでいた。その後、少しずつ素材の形を意識したり、何かに見立てたりする姿が見られ、学級全体が絵として表す活動に移行していった。活動の途中で一度手を止めさせ、製作に関わり工夫したことを問うた。子どもから「材料の大きさを工夫して置きました」や「全体に広がるように粉をまきました」などの意見が出た。また、素材を置くタイミングをずらすことや、チョークを二本同時に削って混色するなどの工夫も出た。それぞれの工夫を板書し、学級で共有させた後、活動の続きを行わせた。



板書や活動などの様子



自然物を置いたり粉を振ったりするタイミングを変えて表した様子

短時間で一枚の絵が完成するため、子どもはこの時間に数枚の絵を仕上げていた。また、板書の工夫を活かしたり新たな方法を試したりする姿も多く見られた。



完成作品（子どもが撮影）

Ⅲ おわりに

二つの実践では、どちらも自然物を素材とし形や色に注目させながら、自然物への見方を再構成させる内容とした。子どもは、自然物の形や色の面白さや美しさに触れ、そこから発想を広げ構想を練ることで自分の思いを表した。どちらの実践も子どもが熱心に取り組む姿を見ることができ、意欲的に思いを表す様子が窺えた。

実践1では、色を意識する姿が多く見られ、自然物の美しい色合いや、紅葉した葉の色の変化を楽しむなどの様子が見られた。実践2では、自然物の形を意識しながら影絵を描いており、その形を活かして、動植物などの具体物から、幻想的な風景を描き表すなど、表現の幅が広がる様子が見られた。

以上、二つの実践を通して、子どもが自然物の形や色を意識しながら学習を進めることができたと考えられる。しかしながら、ここから自然への思いや、実生活の自然物と

の関わりにまでは至っていない。今後、発展的に自然物についての見方や考え方をもつことができるようになることを願う。